

平成 18 年 度 教 育 研 究 業 績 書

氏 名 寺崎保広

最終学歴	東北大学大学院文学研究科（博士課程後期）単位取得退学			
取得学位	文学修士			
所属学会	木簡学会、日本史研究会、大阪歴史学会、東北史学会、日本歴史学会ほか			
現在の専門分野	日本古代史			
研究課題	古代都城制、木簡、奈良時代史、文献資料の研究			
【研究上の特記事項】				
木簡学会委員 奈良文化財研究所客員研究員				
【学内活動】（学内職歴を含む）				
通信教育部委員 剣道部顧問				
著書、学術論文等の名称	単著、共著の別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
（著書） 『古代日本の都城と木簡』	単著	2006 11	吉川弘文館	これまでの20年間に発表してきた都城と木簡に関する論文19本を集め、全体を統一して論文集という形にまとめた。
（学術論文） 藤原京から平城京へ	単	2006 9	明日香村 『続明日香村史』	30年ぶりの改訂となる明日香村史のうち、7世紀後半から8世紀初頭の部分を執筆。この間の発掘成果・研究成果をできるだけ取り入れるようつとめた。
（その他） 長屋王邸遺跡	単	2006 5	平凡社 『新版遺跡保存の事典』	辞典項目の執筆で、長屋王宅の発掘概要と、その遺跡保存をめぐる動向の記述に重点を
平城京の暮らし	単	2006 5	奈良文化財研究所	講演。平城京に暮らす下級官人の実態を中心に述べた。
漢字文化のひろがり	単	2006 9	九州国立博物館	国際シンポジウム・コーディネーターとして参加し、討論のまとめを行った。
古代の「官営工房」と飛鳥池遺跡	単	2006 6	大阪府立近つ飛鳥博物館	講演。「古代の工房」展に関わる講演で、飛鳥池遺跡の工房をどう位置づけるか、という点を中心に論じた。
柿本人麻呂とその時代	単	2006 8	高岡万葉歴史観	講演。「柿本人麻呂」の連続講演の一つで、主に歴史的な背景ということで、天武・持統朝について論じた。